

いしのまき わんぱーく

～プレーパークと
広場作りを通した
地域づくり～



笑顔でつながる
みんなの未来



石巻復興支援ネットワーク

特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク

プレーパークは
こうして始まった



遊び場が、ほしい

宮城県石巻市は、東北でも特に被害の大きかったまちのひとつです。石巻市の仮設住宅は、被災地最大の約7,300戸を数え、その中でも私たちが11年8月より支援を行っている開成・南境地区は市最大の約1,800戸。約5千人の方が生活されています。仮設住宅は公園や学校の校庭、空き地等に建設されたため、子どもたちの遊び場が失われました。遊び場を失った子どもたちは、仮設住宅の目の前にある狭い駐車場で遊ぶようになり、ボールが車に当たっては怒られ、遊び声がうるさいと言っては怒られ、一方では事故にあいかけてたり、そうしたことで住民関係が悪くなっていくなど、その状況は悪化していきました。また、外に出て遊べない子どもを抱える親にも過度のストレスがかかり、

ネグレクトや虐待等の危惧もありました。また、新規住民である仮設住宅の方々と、元から住んでいる地元住民の方々との交流が少なく、遠慮しあっている状況の中、互いの暗黙のルールを知らず、トラブルや軋轢が生じやすくなっていることもわかってきました。子どもたちが遊ぶ場所を何とかして作りたい。どの世代の方もほっとひと息つけて、仮設と地元の住民同士が交流できる場が作れないだろうか。——こうした思いから、たくさんのみなさん

のご協力を得ながら始まったのが、プレーパークと広場作りでした。

What's "Play Park"? プレーパークって?

1943年、デンマークの公園設計家ソーレンセンが、コペンハーゲンで始めた「がらくた遊び場」がプレーパークの始まりと言われています。日本では、東京世田谷区のお父さんお母さんが、子どもたちをのびのび遊ばせたいと区から空地进行を借り、「冒険あそび場」を立ち上げたのが始まりで、現在、全国に約300か所あります。「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに掲げることがありますが、「こうでなければならない」「これかなければならない」といったというきまりがないのが「プレーパーク」。子どもの主体性を大切にしていますが、子どもだけの遊び場ではありません。おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん…あらゆる年代の人の「あそび場」がプレーパークです。



石巻の地元企業(匿名希望)からは桜の木10本と水道が寄付された(2012年3月6日撮影)



南境広場は、地元自治会が30年ほど前から市から借り受け、これまで夏祭りや地域の集会が行われてきた(2011年12月7日撮影)



プレーパークと並行して、広場作りワークショップが2012年2月11日から計3回実施された。



たくさんの方の協力を得て、広場づくりは進んだ。広場の石拾いや草取りが行われ、ネットフェンスやソーラー照明、遊具等のハード面の整備も行われていった。目の前の県道が危ないからと、自治会から警察署に要望してくださり、横断歩道も設置された。



プレーパークは
こうして始まった

Ishinomaki One Park

プレーパーク、 始まる！



4月14日・15日に行われた最初のプレーパークでは、会下山プレーパークの会・環境緑地設計研究所・神戸まちづくり研究所・淡路景観園芸学校・石巻専修大学・プロジェクト結協力のもと、木工作やダンボールでの迷路や基地づくり、ボール遊び、コマ、シャボン玉、たき火でバウムクーヘンなどを行いました。快晴のもと、プレーパークを楽しみにしていたたくさんの子どもと大人が参加しました。

子どもたちの創造性や健やかな成長につながるため、自由に遊ぶという遊び方を身につけることの重要性を感じ、プレーパークを定期的開催していきました。開成・南境地区東部は仮設住宅が多く、一方で西部には震災後、新築で入居される方が増えました。これらをカバーするため、東部に位置する南境広場だけでなく、西部に位置する石巻専修大学と連携してプレーパークを実施。プレーリーダー養成を行っていくことで高校・大学生の成長にも繋がっていききました。



プレーパークは
こうして始まった
Ishinomaki One Park

今日も、 遊んだ。

10/21(日)のプレーパークは趣向を凝らし、料理をつくったり、駄菓子屋をオープンしたり、ちょっとバージョンアップしたプレーパークをお届けしました。
午後1時からのスタートでしたが、石巻復興支援ネットワークスタッフが10時に広場に到着すると、すでに女の子が1人待っている!!
なんて良い子なんだ、と思いつつ、とりあえず2人で草むしり。
9月のプレーパークは10人ぐらいだったので、今回はもっと来てほしいと思い石巻専修大のスタッフとチラシ配りなどを検討していると、みるみるうちに子どもたちが集まり始め、最終的にはなんと150人ぐらいの子どもたちが参加してくれました!

日本冒険遊び場づくり協会のぶんちゃんさんも来てくれて、みんなで工作!
駄菓子屋も大盛況で用意したお菓子はほとんど売り切れ!
この日はソーラー街灯を設置してくれたベネッセさんからの授与式も行われました。
ベネッセさんの通信教育教材「進研ゼミ」をやっている子どもたちは、課題を提出するとどんどんポイントがたまっていき、それを文房具やゲームと交換できるのですが、現在、そのポイントを「被災地への募金」という形で使うことができます。そんな心優しい全国の子どもたちからのポイントで、このソーラー街灯は設置されました。



9月16日には、神戸復興塾の辻さんにお越しいただき、広場のワークショップを行いました。辻さんは、阪神大震災後、特に市民と作る公園づくりをしてこられた専門家です。
このタイプの東屋なら広く使えてよい、安全面からフェンスを移動させたほうがよい、花壇があったら、雰囲気明るくなり、心の癒しにつながるのではないかなどなど、たくさんの意見が出ました。皆さんの意見が詰まった白地図は、とても貴重なものになりました!
午後は、プレーパーク実施中の広場で、プレーパークの人気遊びを聞いたり、広場の名前を募集したりしました。
こうして地域の方々に根付いた安心安全な広場を目指して、一歩ずつ場づくりを進めていきました。



プレーパークは
こうして始まった
Ishinomaki One Park

広場で、 ひとつに。

こうして2012年12月24日クリスマス・イヴ、たくさんの方の関わりの中で「いしのまきわんぱく」が誕生しました。

前夜に降った雪で一面の銀世界。誕生式典には、石巻市長をはじめ市議会議員のみならず、石巻専修大学学長、南境東部地区自治会長、仮設開成自治会長ほか錚々たる方々にお越しいただきました。

色々悩んだ末に決まった「いしのまきわんぱく」という名前は、多くの方々がこの広場を通してひとつになるという意味での『one park』と、こどもたちが『わんぱく』に遊んでほしいとの願いから決まりました。

この広場は今回の大震災を踏まえ、炊出しができる防災緑台や、プラグ付きで電気が引けるソーラー照明灯など、災害時には避難場所にも活用できるよう工夫をこらしています。

地元住民や仮設住宅の方々、土地の所有者、

市役所の方々と、どんな広場がほしいのか、どんな広場だったら本当にみんなのものになるのか話し合い、信頼関係を積み重ねながら、プレーパークと広場づくりを進めてきました。

本当に多くの方々の参加と支援を得て、作り上げることができました。まさにその歩みは、さまざまな交流を促し、こどもをはじめいろいろな方を地域全体で支えあう地域づくりそのものだったと言えます。



広場づくりのこれまでの成果

- ①プレーパークに、延べ500名程度の親子が参加した。
- ②地元自治会と仮設自治会がつながり、交流が生まれた。
地域の方々が自発的に広場づくりに協力してくださり、横断歩道の設置や環境整備が行われた。
- ③石巻専修大学の敷地内で、大学生主体によるプレーパークが行われるようになった。



南境東区長 日野秀雄さん

今回は、多大なるご支援ありがとうございました。震災後、私たちが生活している地区に、大規模仮設住宅団地が建設され、様々な地域から入居されてきました。道路一本しか離れていませんが、なかなか交流するきっかけがなく、何かしたくても難しい状態でした。そういう中で、広場作りが始まり、仮設住宅にお住まいの方々と知り合い、徐々に交流が生まれてきました。とても良い機会となりました。

仮設団地の皆さんに、広場を使っていたら、癒しの場になると嬉しいです。皆さんと一緒に花壇を整備して、お花見しながらゆっくりお茶っこしたら、とても良い場になると思います。また、子どもたちが遊んでいる姿を見ることは、お年寄りの方にとっては元気が出ますし、子どもたちも安心して遊ぶことができるでしょう。広場の周りは、散歩される方も多いので、寄っていただいて、休んでいただきたいです。次の災害に備え、災害時はかまどになる縁台を設置していただきました。積極的に防災訓練等で使っていただきたいです。どんどん新しいアイデアが出てきます。この広場をさらに発展させ、多くの世代の方々が交流する広場になってほしいと思います。

仮設開成3, 4, 5, 6, 14団地
自治会長 佐藤孝さん

震災の一番の被害者は、子どもたちではないかと思っていました。遊び場がない子どもたちのことが気がかりでしたが、今回、立派な遊び場ができて、本当に嬉しく思うと同時にほっとしています。みなさんが集う広場になればと思います。

高橋千恵子さん

震災後、子どもたちの遊び場がなくなり、困っておりました。やっとストレスを発散する場ができ、元々よく、伸び伸び遊ぶ姿を見て、ほほえましく思います。仮設住宅に住む方々と地域住民が集えるようになったことも魅力です。本当にありがとうございます。

笑顔でつながろう
～未来に向かって～

石巻復興支援ネットワーク

震災直後から支援活動する中で私たちは、ひとりひとりの心の拠り所となる居場所が必要であること、機会があれば人は変わり、成長していくこと、ひとりひとりが可能性に満ち溢れていることを知りました。復興への道のりとさらにその先の石巻の未来に向けて、私たちは市民ひとりひとりが支え合い、課題をみんなで乗り越えていけるような社会基盤を作りたいと思っています。

Ishinomaki One Park
石巻復興支援
ネットワークの
ビジョン

石巻復興支援ネットワーク 広場作り事業

【目的】大規模仮設住宅が建設された開成・南境地区で、下記目的の元実施。子どもたちのあそび場をつくることで、不足する遊び場を補う。そこに住む地域の人たちが、広場作りに参加することで、仮設住民／地元住民／地元大学のコミュニティを作る。

【これまで開催した広場作りイベント】

- 2月11日 第一回広場作りワークショップ開催
- 4月14日 第一回プレーパーク
- 4月15日 第二回プレーパーク
- 4月15日 第二回広場作りワークショップ開催
- 4月30日 お花見
- 5月20日 第三回プレーパーク
- 6月17日 第四回プレーパーク→雨天中止
- 7月15日 第五回プレーパーク
- 8月 8日 第六回プレーパーク
- 8月19日 第七回プレーパーク、子供向け広場作りワークショップ開催
- 9月16日 第三回 広場作りワークショップ開催
- 9月16日 第八回プレーパーク
- 10月21日 第九回プレーパーク
- 11月18日 第十回プレーパーク&野球教室
- 12月24日 第十一回プレーパーク&いしのまきわんぱーくオープニング
- 1月20日 第十二回プレーパーク
- 2月17日 第十三回プレーパーク
- 3月 9日 第十四回プレーパーク

【広場作りのこれまでの成果】

プレーパークに、延べ500名程度の親子が参加した。地元自治会と仮設自治会がつながり、交流が生まれた。地域の方々が自発的に広場づくりに協力してくださり、横断歩道の設置や環境整備が行われた。石巻専修大学の敷地内で、大学生主体によるプレーパークが行われるようになった。

【広場作り協力団体・企業】

石巻市、地元企業(匿名希望)、南境東部自治会・住民さん、仮設開成自治会・住民さん、石巻専修大学復興共生プロジェクト、(特活)日本冒険あそび場作り協会、(特活)冒険あそび場せんだい・みやぎネットワーク、(一財)ダイバーシティ研究所、ネスレ日本(株)、凸版印刷(株)、(株)ベネッセコーポレーション、コトキホールディングス(株)、石巻建商(株)、(有)蒲公英、松屋商店、ソーケングループ・(特活)野球大好き・町田・デザイン専門学校の学生さん、積水ハウス(株)の新入社員の皆さん、兵庫県、東日本緑花再生ネットワーク、会下山プレーパークの会、(特活)神戸まちづくり研究所、神戸復興塾

【ハード面の整備、寄贈・寄付団体】

地元企業(匿名希望):桜の木10本、水道(3月、5月)
ソーケングループら:ネットフェンス、野球道具(8月)
(株)ベネッセコーポレーション:ソーラー式外灯2基(1台は災害時仕様、10月)
ネスレ日本(株)、凸版印刷(株):遊具、東屋、防災縁台他(12月)
コトキホールディングス(株):遊具1台、遊具価格協力(12月)
石巻建商(株):工事協力
(有)蒲公英:10万円
松屋商店:10万円
(一財)ダイバーシティ研究所:支援企業のマッチング等